

産業建設常任委員会 行政視察報告

(委員長 多田 誠一)

●日程

平成24年10月30日～11月1日

【視察研修先】

石川県鳳珠郡能登町
石川県羽咋市

◆春蘭の里実行委員会の取

り組み

奥能登春蘭の里実行委員会は、能登町の北西部に位置し、標高200mの中山間にあり、農地は川沿いに極めて狭小に連なり、高齢化率が高く、過疎化が進む集落の将来を懸念。会社員、建設業、農林業の有志により、「春蘭の里実行委員会」が設立され、活性化に向けた活動が始まり、現在に至っている。

奥能登らしい農家民宿群にこだわり、外観は白壁と黒瓦に統一し、輪島塗の食器による食事を提供している。民宿群は、40戸に拡大、また、廃校を宿泊施設に改



造し、地区民によるオーナー制により運営されている。修学旅行、観光客を積極的に受け入れ、月40万円の売り上げを目指し、地場食材の活用、後継者の育成に努めている。体験工房や野菜作り、夜は昔話、伝説等、語り部には女性や高齢者が参加し、都市住民との交流

の広がりにも務めている。「春蘭の里」の商標登録を行い、商品開発、農産物の生産、菓子、惣菜の製造業の許可を取得、これらを加工販売する「(有)春蘭の里ファーム」(農)夢づくり工房」を設立し、雇用の場を創出している。

◆「山彦計画」の実施

羽咋市の山村集落活性化計画「山彦計画」について、神子原地区は、高齢化率54%、耕作面積110ha(うち、遊休地46ha)人口500人(20年で人口半減)積雪2mの中山間地域である。山彦計画を策定し、山村集落の活性化を目指している。

山彦計画を実行するためには、住民と行政が理念を共有し、行動していくこと、

従来の流通を変える戦略に基づいて幾つものプロジェクトを同時並行して進めていくことが大事。世界の米、神子原米を誕生させる(価格3倍)ことによりブランド価値が高まり、農家の出資により、「農業法人株式会社 神子の里」を設立、人工衛星が撮影した水田稲作のデータ解析を活用した良質米作りをしている。また、女性による加工直売施設、「神子の里」を設立した。

都市との交流を図るとともに、能登地方に伝わる風習「よぼし親子」(疑似の親子関係)を活用し、体験宿泊を受け入れるとともに、大学生による援農、移住民への農家と農地のセットでの貸与、専門性を持った人の移住から生じる新しい農業なども始まっており、こ

れからの農業や地域を熱く語り、活性化させる人材の育成を目指している。厳しい環境の中で、情熱を持つて大きな地域課題に真正面から取り組む両者の姿勢にふれることができたことは、とても有意義であった。

